

【2】クリタケ (*Hypholoma sublateritium*)



（1）特徴

モエギタケ科クリタケ属のキノコで、晩秋に広葉樹の切り株や倒木から束になって生える。食用。傘は明るいレンガ色をしている。天然ものは食毒性のニガクリタケとの区別に注意。

（2）栽培方法

栽培上の特色：ホダ木から直接発生するだけでなく、ホダ木周辺の土中の有機質にも菌糸が成長してキノコが発生する性質があるため、ホダ木に薄く覆土する方法をとる。

①原木の準備と植菌

- ・原木樹種は、コナラ、ブナ、シデ類、サクラ類のほかほとんどの広葉樹が使用できる。
- ・2月～4月（サクラの咲く頃まで）に植菌し、植え穴数は、原木の長さ1m当たり直径（cm）の3倍くらいを目安とする。発生時に覆土状態にあるので「たね駒種菌」の方が確実性が高い。

（注）十分に乾燥した原木を用意すること。生木状態の原木は不可。

②仮伏せ

- ・植菌後、本伏せ前まで「仮伏せ」する。林内の直射日光が当たらない、排水の良いところに1段で並べ、途中でホダ木の上下を反転（天地返し）し菌糸成長を均一化する。
- ・最初の2週間くらいは適宜散水して種菌の乾燥を防ぎ、活着を促進する。

③本伏せ

- ・10月から11月頃、菌糸がホダ木全体に蔓延していることを確認（木口面の菌糸紋を見る）してから、土中に埋め込む「本伏せ」を行う。
- ・埋め込みの場所は、水はけの良い林内が望ましい。ホダ木の直径の半分くらいの深さまで地面を掘り、ホダ木を約10cm間隔に並べ、その上に約1cmの厚さに土をかける。水はけの悪い場合は畝をつくっておき、ホダ木の木口面が露出するように覆土する。

（注）菌糸の成長が遅れている場合は、埋め込みを翌春まで待つこと。仮伏せも本伏せも直射日光に当てないこと。草は日除けになるので、発生期以外は草刈りは不要。本伏せをした上を歩いて土を踏み固めないようにすること。

④発生と収穫

- ・植菌し本伏せをした次の年の秋（10月上旬から11月末頃）に発生するので、発生期前にホダ木周辺の草を刈る（原木の腐朽具合により植菌当年から発生する場合あり）。
- ・傘が開き過ぎると子実体が壊れやすくなるので、傘の膜が切れる前後に株ごと収穫する。

（注）発生期近くになって極端に降雨が少ない場合は適宜散水する。

（3）栽培暦

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1年目	伐採											伐採
		玉切										
			植菌									
				仮伏せ								本伏せ
2年目									草刈		収穫	

（担当：久田善純）

参考文献

- ・特産シリーズ 61 クリタケー野生味を生かす栽培法－（1988）大貫敬二、（社）農山漁村文化協会
- ・図解よくわかるきのこ栽培（2004）（財）日本きのこセンター編、（社）家の光協会
- ・キノコ栽培全科（2001）大森清寿・小出博志編著、（社）農山漁村文化協会